

第6回山ノ内町議会報告会実施結果報告書(南部)

日時	平成25年1月27日(日) 午後3時～5時まで	
場所	はなみふれあいセンター (住民参加者数:24人) 議員 16人 事務局 1人	
地元協力団体	南部協議会	
議員役割分担表	総括責任者 司会進行 常任委員会報告者 総務常任委員会 社会文教常任委員会 観光経済常任委員会 広報常任委員会 議会活性化委員会 記録者 出席議員	児玉 信治 湯本 市蔵 高田 佳久 児玉 信治 徳竹 栄子 高山 祐一 西 宗亮 望月 貞明 小淵 茂昭・湯本 市蔵・小林 克彦・山本 一二三・渡辺 正男 徳竹 栄子・黒岩 浩一・山本 良一・児玉 信治・高田 佳久 高山 祐一・布施谷 裕泉・田中 篤・西 宗亮・望月 貞明 小根澤 弘 (事務局一名)
次第(担当者)	1. 開 会 2. あいさつ 主催者 共催団体 3. 議員紹介 4. 報告事項 (1) 議会常任委員会等報告 ①総務常任委員会 ②社会文教常任委員会 ③観光経済常任委員会 ④広報常任委員会 ⑤議会活性化研究会 (2) 懇談事項 5. 懇談事項 (1) 少子高齢化とどう向き合う 6. その他 7. 閉 会	司会者 小淵 茂昭 議長 養田 修 南部協議会長 司会者 望月 千弘 南部公民館長
懇談会意見	質問: 竜王に放置されている廃屋があり、夏には学生が中に入ってくるので危険、解体処分できないか。 回答: 町建設水道課に話してあるが、現状では、持ち主が見つからないので、処分できない。ロープを張るくらいしか方法がない。これから強制処分できるよう議会観光経済常任委員会としても条例制定等の対策を考えたい。 質問: 介護保険料が毎年上がるのは大変である。ストレッチなど高齢者の介護予防の取り組みは評価するが、そうなる前に若い時からスポーツを楽しみ、自分の健康は自分でつくっていくようにすれば、介護予防につながる。生涯スポーツと思えるソフトボールは楽しみだったがある年齢でやめざるを得なくなった。今の体育行政は若い人が勝つためのスポーツだけを推進して年寄りを排除している。もっと、高齢者も一緒に楽しむためのスポーツできるよう取り組んでもらいたい。 回答: 自分の健康は自分で守る、自助努力が大切です。昨年、女性団体との懇談で2～30代の若い人の糖尿病予備軍が50%と増えていることを危惧し、食事で糖분을控える等の生活習慣を変えることに取り組みたいとのことであった。町の特定検診受信率が低いので、受診率向上のため、中野市の病院でも検診が受けられるよう、町に要望していきたい。 質問: マスコミで報道される生活保護について山ノ内町の考え方は、	

回答:町で生活保護は平成23年度、56世帯、69名が受給している。町は都会のように就業時の給料と生活保護費の逆転現象はないと思うが、問題は給与所得が下がっていることが原因で給与の改善が必要だと考える。

質問:我々が汗水流しているのに生活保護受給者がハイヤーを使っているのを見たという話だ。これについて町はどう対応しているのか。

回答:町には生活保護の受給者資格があるかどうかの判断する権限がない。地元の民生委員と相談して県に申請し、県のケースワーカーが支給の判断をしている。タクシーは病気を抱えてやむを得ず使っているのかもしれない、不正受給かどうかは外から見ても分からないので民生委員によく見てもらうしかない。

意見:小学校を単に適正規模にするために統廃合するのはどうか。これから子どもの人数が減るなかで、100年くらいの長期での教育を念頭に考えて検討してほしい。昔の小中学校のように縦横のつながりが持てる小中一貫校を提案したい。

質問:少子化防止には若い人が住めば解決する、これに対して町は具体的施策を持っているか。

回答:町に若者定住補助制度がある。結婚した者にアパート家賃を補助している。少子化の一番の原因は結婚しない人が多いことにあるので、結婚促進のための活動、男女の出会いの場を作る街コンを計画しているが相手が県外だとカップル成立に難あるので、これから中野、木島平等、近隣市町村と合同で計画している。

回答:少子化の原因は40、50にもなって結婚しない人が多いことだ。第一にやることは街コンによる男女の出会いの場を設けることで、これは松本市で成功している。次に男性では300万円の年収がないと結婚できないので、職場の確保が必要だ。観光と農業だけで1万5千人の人口を維持できるかが問題でもある。手遅れだが、これから新産業育成を考えなくてはいけない。

質問:高齢化率が33.5%に上り、介護保険料はこれから上がる一方だ、抑える具体的な方法はないのか。

回答:高齢化率が上がってもピンピンコロリであれば介護費用が減らせる。そのために、介護予防の運動を奨励している、社協の生き生きサロンや区で運営するお達者クラブ等で一人にならないようにしている。

回答:運動などの介護予防で介護認定者数を減らせば保険料は下がる、しかし、介護認定者に手厚い介護をすれば、介護保険料は上がる仕組みで難しい。

質問:介護予防が必要なことは分かった。ほかに、保険料を下げる施策はないか。

回答:介護予防のためにぜひ町の特定健診の受診率を60%に上げていくような各地区で努力してもらいたい。そうすれば食事指導が受けられ、本人も健康になり、介護認定者が16.1%以下にすることができる。

また、介護保険料は国が50%、県が25%負担している、町の保険料減らすには国が消費税を投入して負担率を上げるとか、もっと県単位で運営するようになれば町の保険料は下がる。

質問:町議会に会派が4つもあるがこれだけ必要なのか。

回答:1年生議員は何も分からないので勉強会的組織が必要で会派ができた。山ノ内議会では活発で年間53回と多くの一般質問をしている。この背景には会派があるのは間違いない。また、国会と違い、町会の政党を除く会派は政策集団ではないので友達付き合い的色彩が強く、議決は議員の個人判断となる。

質問:湯坂の歩道は南部の児童、生徒が利用する重要な歩道である。歩道の実施計画は25年度設計、26年度工事と聞いていたが、先日、役場で確認したら1年遅れる話であった。工事が有耶無耶になることが心配だ。計画通り進めるようにしてもらいたい。

回答:懇親会での町長の挨拶では計画通り進んでいるような話であった。工事が遅れる話は聞いていない、町に確認してみたい。

質問:北海道や東信地方、全国で外国人が水源地を買収したことが問題になっている、鈴木沢次郎のような先人が開発した水源地を外国人が買えないような規制があるのかないのか、また、水源地の土地所有者と水利権の関係を教えてほしい。

回答:安曇野市等では水源地の売買を規制する動きになっている。昨年度の山ノ内町9月議会で外国資本による水源地の売買を禁止する意見書を全会一致で可決提出した。

「和合会」、「共益会」、「佐野共有林」などの法人所有の土地は心配ないが個人所有

の山林はうまい話で動くかもしれないので議員でしっかり目を配っていきたい。
次に土地所有者と水利権の関係は湧水からパイプを直接引けば水は土地所有者のものだが水源から1mでも流れると水利権が発生する、夜間瀬川水系の水利権は中野市の八ヶ郷が全部もっている。山ノ内町には水利権がない。

要望:「長寿を祝う会」は町の四公民館主催で開催しているが、年々町の予算がカットされて、招待をしておきながら、できるだけ出席しない方がいいというようなことではまずい。議員にはしっかり予算を取れるよう町に要望してもらいたい。

要望:山ノ内町には優秀な子どもが育っているが学校を卒業すると、県外に出る出稼ぎのようになってしまう。このような若者が働ける職場を作ることが必要だ。米ボーイング787の多くの部品は日本製だ。山ノ内のような空気がきれいな所に小さくてもいいがハイテクな産業を誘致できれば若者定住につながると思う。ぜひ、議員にはそんな環境を整えてもらいたい。

質問:竹下内閣の時の「ふる里創生資金」1億円はどうなったか。

回答:道の駅と楓の湯を作るときに5千万ぐらい使ったが、残りの基金はそのままである。道の駅の利益が毎年1千万、楓の湯から毎年300万、一般会計に入って有効活用されている。基金に戻せば軽く1億円を超えている計算だ。残りの基金を使い果たすと問題があるのでそのままである。

質問:学校の運動クラブは子どもが減っている現状で強くするには今、大阪で問題になっている体罰の方向になりがちである。子どものためにも大人が生涯スポーツに取り組めるためにも、総合型のスポーツクラブを立ち上げたらどうだ。

回答:国の施策では週1時間ぐらい汗が流せる運動を取り入れることが医療費低下につながり、望まれているところだが、スポーツクラブの中心となる社会体育館のような施設が予算の問題でまだできない。まず、これを作ることがスポーツクラブに必要なと考えている。